

Tsunagu

[つなぐ]

AUGUST 2025

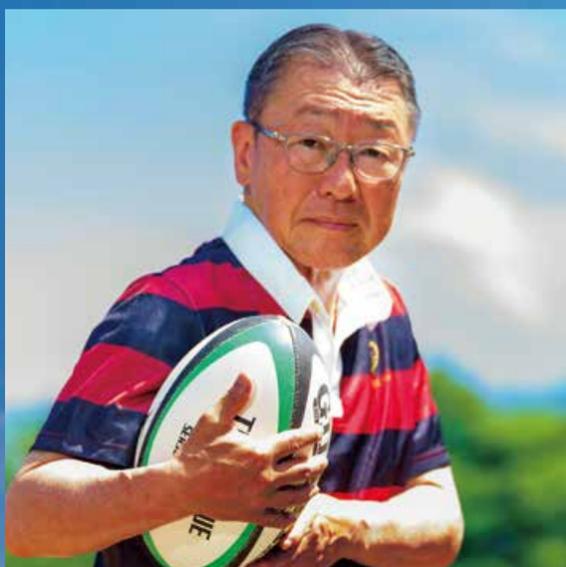
土屋よういち後援会報

vol.02 [討議資料]

UEDA CITY
REBRANDING
PROJECT

SUN to UEDA

太陽の学園都市 信州上田 《スポーツ編》



2025年夏、いよいよ2期目終盤に差し掛かった土屋市政。激変する時代のなかで、常に真摯に直面する課題と向き合ってきました。上田再構築プランver.2.0も上田市の長期構想との整合性を図りながら推進してまいりました。着実に一歩ずつ、停滞することなく上田市は未来に向けて前進し続けています。

更に上田市を明るい明日へ導くために、上田市の気候、自然、風土、歴史、文化、産業、イベントなどを再検証し、この地域が持つ魅力や優位性を活かして、私たちの信州上田を「太陽の学園都市」と再定義し、その可能性を磨き、伸ばしていきたいと考えています。

まずはその起爆剤となるスポーツにスポットを当て、最近の明るい話題とともに、上田市のこれからを一緒に考え、すべての市民のための健幸都市を共に築いていきましょう。



▲千曲公園から東方向(上田市街地)を望む[2025年7月]

スポーツの力で、この上田市はもっともっと輝く!!

性別や世代、障がいの壁を越えて前へ進もう



▲稲倉の棚田から南西方向(上田市街地)を望む[2025年7月]

太陽の学園都市【スポーツ編】 スポーツで市を活性化、輝く未来をつくる!!

統計によると、8割以上の市民が「運動・スポーツは大切」と感じています。

上田市は、「スポーツ都市宣言のまち～生涯スポーツ社会～」の実現を掲げ、スポーツを通じた心身の健康増進と地域経済の活性化をめざしています。そしてライフステージに応じたスポーツ施策を推進し、誰もがいつでもどこでもスポーツに親しめる環境づくりをめざしています。

具体的な取り組みとして、上田市総合型地域スポーツクラブ等と連携し、親子スポーツフェアやスポーツ懇談会、健康経営支援事業などを実施しています。

また、上田市を代表する選手育成のため、強化指定選手への支援や、スポーツ講演会・指導者研修会などを開催しています。さらに2028年の「信州やまなみ国民スポーツ大会」に向け、上田市出身選手が活躍できるよう、加盟競技団体と連携し、選手の発掘・育成・強化、指導者養成などを支援しています。

まちづくりへの活かし方としては、スポーツイベントの開催やスポーツ施設の整備を通じて、地域を活性化し、観光客誘致や地域経済の発展に貢献します。また、健康増進や体力向上施策を通じて、市民の健康寿命を延伸し、医療費抑制にも努めています。

いつ蔓延するか予想できない感染症など向き合う中で、身体的及び精神的な健康を維持するためには、身体を動かすことやスポーツを行うことがますます重要となっています。

今後は、様々に変化する社会情勢に対応し、多様化する市民ニーズや運動・スポーツ活動の実施状況を把握するとともに、SDGsが掲げる普遍的な目標や方向性は地域課題の解決に資するものであることから、SDGsの目標を踏まえ、市民一人ひとりが自主的・主体的に取り組むことはもとより地域、スポーツ関係団体、学校等と連携・協働しながら、スポーツ施策を推進していきます。

上田市では、菅平高原がスポーツ合宿の聖地として知られ、ラグビーやスキーの大会が開催されています。

また前出のとおり、信州やまなみ国スポの開催地の一つであり、ソフトテニス、ラグビーフットボール、ハンドボール、軟式野球の競技が予定されています。さらに、上田市ではオブスタクルスポーツ（障害物レース）の専用施設を整備する計画も進められています。

今号は、太陽の学園都市 信州上田を未来に向けてさらに輝かせ、より良いまちづくりを進めるために欠かせない『スポーツ』にスポットを当てて、最近の上田市のスポーツ事情と係る取り組みを紐解いてみたいと思います。

『小さなことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただひとつの道』◆ 偉業を成し得たイチローさんのこの言葉は、野球だけでなく人生全般に通じる真理を突いています。毎日のルーティンを欠かさず行い、地道な努力を積み重ねることで、誰も到達できなかった高みに達することができるという教え

スポーツ合宿の聖地・菅平の2施設、 「アンダーアーマー」にネーミングライツ!! ラグビーにとどまらず サッカーやバスケのイベントも企画

2024年4月、上田市はスポーツ合宿の聖地として知られる菅平高原にある市有の総合運動公園施設「サニアパーク菅平」と併設の屋内競技施設でトレーニング

グルームなどを備えた「菅平高原アリーナ」に関して、米国のスポーツブランド「アンダーアーマー」の日本総代理店「株式会社ドーム」様（東京）とネーミングライツ（命名権）契約をスタートさせました。

同社は命名権の取得にとどまらず、スポーツ振興を目的に、菅平の限定商品の販売やイベント開催などを計画、実施しており、市も連携してコロナ禍で大打撃を受けた聖地の再興と発展を推進しています。

菅平は第2次世界大戦前、大学ラグビー部が合宿を行ったのを契機に、地元が一体となり合宿の誘致を進めました。

今では100面を超えるグラウンドが整備され、大学や高校を中心にラグビーやサッカー、テニスなど年間1,500近くチームが合宿を行っています。中でも、合併前の旧真田町が1999年に整備したサニアパーク菅平は、聖地を象徴する施設と言われています。

命名権の契約期間は3年間で、愛称は2024年4月からそれぞれ「アンダーアーマー菅平サニアパーク」「アンダーアーマー菅平アリーナ」になりました。

命名権料は年1,000万円で、施設の適切な維持管理やトレーニング環境の整備に有効に活用させていただきます。

締結時、ドーム社の北島CEOは「上田市が「スポーツ都市宣言」を制定し、スポーツの力で一人ひとりの生活を支え、心がより豊かになることをめざしている思いに共感し、今回の締結に至りました。上田市と一緒に、学生アスリートを精神面、環境面からサポートしていきたい」と語られ、市は「ドーム社との友好関係を醸成しながら、大いに盛り上げたい」と応じました。

上田市は今後も、ドーム社の理念に呼応したアスリートの環境面にとどまらない、人材育成などを通じた価値創造に、ともに取り組んでいきます。

『アスリートが持つパフォーマンスを最大限に発揮できるウェアを作りたい』という創業者の思いから UNDER ARMOUR (アンダーアーマー) は誕生 ◆ 「進化をもたらす」をミッションに掲げる “パフォーマンスアスレチックブランド”



◀菅平アリーナ屋内競技場
菅平アリーナトレーニングルーム▶



▲サニアパーク菅平全景

ラグビー日本代表候補 「15人制男子トレーニングスコッド」、 15人制女子の日本代表 「サクラフィフティーン」が菅平で強化合宿

6月、日本ラグビーフットボール協会が日本代表候補「15人制男子トレーニングスコッド菅平合宿」を、15人制女子ラグビーの日本代表「サクラフィフティーン」が強化合宿を行いました。

それぞれのチームには、合宿直前の激励会で応援の品として、JA信州うえだ様からは新鮮な野菜類を、上田市からは牛肉を送らせていただき、声援を送りました。

男子参加選手は、フォワードの20人と、バックスの17人。ヘッドコーチはあのエディー・ジョーンズ氏。菅平合宿中、小学生を対象にしたラグビークリニックも開催。一部トレーニングの一般公開も行いました。

女子チームは8月からイングランドで開催する「女子ラグビーW杯」で「ベスト8以上」を掲げて汗を流しました。

「日本の女子ラグビーの力を発揮し、日本の皆さんに勇気と元気を与えていただけるような結果を期待します。素晴らしい成果の出る合宿にしてください!!」とエールを贈らせていただきました。

選手たちは「菅平は気候が涼しく、施設の設備も揃っていてラグビーに集中できる環境でとてもいい」と話してくれました。

女子日本代表は現在世界ランク11位。男子・女子とも古くからラグビー合宿のメッカである菅平での合宿をステップに、一層の飛躍を願い、世界での活躍を期待しています。

さらに、未来ある高校生による高校ラグビーの大会「KOBELCO（コベルコ）カップ2025」も日本ラグビー協会主催で7月下旬から開催され、性別、年齢などに応じた三つの大会から成り、全国9ブロックのチームによって競い合われました。

男女とも近年のワールドカップ（W杯）の日本代表や現日本代表候補の多くが高校時代にコベルコカップ出場を経験していることから、いずれ日の丸を背負って世界の強豪と戦うメンバーが菅平で汗を流した中から誕生するというを意味します。

上田市は世界へ羽ばたく若きアスリートたちを心から歓迎し、様々な環境を充実させながら応援し続けます。

『One for all, All for one (一人はみんなのために、みんなは一人のために)』◆ ラグビーのチームプレイの精神を象徴する言葉



▲株式会社ドームとのネーミングライツ締結





▲ラグビー日本代表・エディージョーンズ HC と



▲ラグビー日本代表・集合写真



▲ラグビー試合風景

スカイランニングの「太郎山登山競走」2025 初の「ワールド・シリーズ戦の世界大会」開催

5月、上田市で山を駆ける競技・スカイランニングの「太郎山登山競走」2025が開催されました。とりわけ4日は「ワールド・シリーズ戦の大会・世界大会」が初めて行われました。上田市内でスポーツの世界戦が開催されるのははじめて、海外から約50人のアスリートの参加がありました。

3日は大星神社スタートの5km、3.5kmのレースと応援トレッキングが行われ、4日は世界大会（スカイランナーワールドシリーズの第7戦）。上田スカイレースは、アジアで最も急峻でテクニカルとされており、大星神社をスタートし、太郎山頂、虚空蔵山頂を経て一旦下塩尻まで下り、再び登り下りを繰り返す距離26km、標高差3,050mのコース。制限時間7時間半という、極めてハードな本格的レースでした。その他にも19km、3kmのレースも開催されました。

3日の上田駅前での開会式では、上田市への来訪歓迎



▲太郎山登山競走スタート付近



▲古戦場公園テニスコートオープニングセレモニー

「上田古戦場公園テニスコート」が完成!! 2028年 信州やまなみ国民スポーツ大会の開催地として準備着々

3月、上田市築地に「上田古戦場公園テニスコート」が完成しました。2028年開催の長野県国民スポーツ大会のソフトテニス競技会場として予定されています。現地で「オープニングセレモニー」が開かれ「記念試合」なども行われ、多くの皆さんに楽しんでもらえる場所になるよう、素晴らしいテニスコートになるよう充実させていきたいと思っています。

6月には、長野県高校総体ソフトテニス男子団地で地元上田染谷丘高等学校が33年ぶりの優勝（大会会場：浅間温泉庭球場公園）をつかむ快挙を成し遂げました。とても嬉しいニュースでした。硬式、軟式問わず上田古戦場公園テニスコートが競技人口を増やし、市内外から多くのプレーヤーが集い、躍動する姿が溢れることを期待します。

全天候の素晴らしいコートで、冷暖房完備の休憩室やシャワー室等を備えたクラブハウスもこのテニスコートの魅力です。大きい大会ではどうしても会場を分散して行わざるを得ませんが、準々決勝あたりからは一カ所のできる施設が上田市にもようやく整備されました。

道路を挟んで隣接する既設のテニスコートと共に、地域のテニス文化の拠点として、県営上田野球場、多目的グラウンド、室内多目的運動場と併せて、上田駅近エリアにおけるスポーツ文化の発信拠点として活用されていくことを期待し、周辺環境のさらなる整備を進めていきたいと思っています。

挨拶と太郎山は市民に親しまれている山で『いいむしとれる』で1,164mと紹介、世界大会に位置付けられたことへの慶祝の挨拶、開催に尽力いただいた関係者の皆様への謝意を述べさせていただきました。

上田市民の愛する市のシンボル太郎山を舞台に繰り広げられる世界レベルの都市型登山競走がこの地に根付き、日本のみならず、世界の注目を得ることは上田市の誇りです。風が気持ちよく、ミズナラとかブナの木が美しく、レース中なのにとり眺める選手も多くいたそうです。

多くの参加者にこの大会に参加して良かったなど、心から思ってもらい、毎年リピートいただき、さらに多くの来訪、参加を募れるよう、そして市民の皆さんにも周知、参加いただけるよう来年以降も強力でバックアップしていきたいと思っています。



▲太郎山登山競走スタート写真

『挑戦なくして成長なし』 ◆ 日本スカイランニング協会が掲げる、2024年を象徴する言葉です。挑戦の積み重ねが、選手や組織を高めへと導くというメッセージ

「この一球は絶対無二の一球なり。されば身心を挙げて一打すべし。」 ◆ 日本テニス選手権の第1回大会男子シングルス優勝者・福田雅之助さんの言葉

市民の森へ「オプスタクルスポーツ」コースの実現!! 上田市の目玉として世界に発信

6月、市内住民自治組織3団体（豊殿まちづくり協議会、神科・神川まちづくり委員会）が、上田市芳田の市民の森公園の利活用のため、2028年ロサンゼルス五輪採用で注目されている「オプスタクルスポーツ」のためのコース設置許可を市に要望しました。

「オプスタクル」とは、英語で障害物を意味し、民放テレビ番組「SASUKE」が契機で人気になった障害物レースです。このスポーツ人口は世界で2,000万人を超えているとも言われ、約2万人のアスリートが各国で競技大会に参加しています。

国内では、2024年4月に徳島県吉野川市に初の公認常設コースができました。市民の森では、「ニンジャコース」と呼ばれる子供から大人まで楽しめるコースの設置が検討されています。市民の森は環境の良さには定評がありますが、スケート場がなくなり、今年度内にテニスコートも廃止されます。後活用と活性化を模索していたところ、地元豊殿出身のJOSA北信越ブロック・豊岡ディレクターからコース設置の提案がありました。

3団体からのコース設置実現のための構想に対し、行政としてどう協力し、サポートしていくかが今後の課題になります。

ニンジャコースができれば、日本初になります。真田忍者が修行し、猿飛佐助にもゆかりを感じるこのコースをぜひ設置し、上田市の新たな観光の目玉、起爆剤として、潤沢な既存観光資源と共に上田市のさらなる活力を生み出すため、関係各位と市民の皆さんと連携しながら進めていきたいと考えています。



▲オプスタクルスポーツ要望書提出



▲市民の森テニスコート



▲市民の森スケート場管理棟



◀信州プリリアントアリーズ市長表彰

**高齢者・障がい者にも
eスポーツでやり甲斐、輝きを!!**

2024年12月より、踏入未来会議・株式会社野村屋・イオンスタイル上田・神川包括支援センターの4者が連携し、毎月第4水曜日にイオンスタイル上田店にて、高齢者を対象とした「eスポーツ体験会」を開催しています。

本取り組みは、健康体操と認知症予防を主目的としつつ、ゲームを通じて参加者同士のコミュニケーションを活性化し、日常に「楽しみ」や「生きがい」をもたらすことをめざしています。

会場ではスタッフがマンツーマンでサポートに入り、ゲームが初めての方でも安心してご参加いただける体制を整えています。参加者同士の交流や笑顔あふれる空間は、まさに世代を超えた「共生社会」の一步と言えるでしょう。

また、今年2月には丸子修学館高等学校福祉分野専攻の2年生15人が、高齢者対象に「eスポーツ体験会」を市丸子解放センターで開きました。

同センターが健康推進事業として企画したものです。地域の高齢者10人が参加し、生徒たちにアドバイスを受けながらリズムに合わせて太鼓をたたき「太鼓の達人」で楽しみました。高校生は参加者にマンツーマンで付き添ってサポート、待ち時間も楽しめるよう、段ボール箱をペットボトルで叩く練習用太鼓を人数分用意し、会場全体で盛り上がりました。

同福祉分野専攻の生徒も参加した高齢者とのコミュニケーションを通して心の交流が生まれ、双方にとって意義深い時間だったと思います。

上田市としては、今後もこのような取り組みを支援し、関係各位と協力しながら年齢や障がいの有無を問わず、誰もが取り組める「eスポーツ」の力を活用した健康づくり・居場所づくり・仲間づくりを推進していきます。



eスポーツ体験会

このように、様々な障壁を越えて人々とのつながりを構築できるスポーツとして誰もが取り組みやすい「eスポーツ」は、近年注目を浴びており、幅広い世代、層で浸透を図れる可能性があります。

年齢や健康、障がいに関わらず、全ての人に平等な機会を提供するeスポーツへの能動的な取り組みは、上田市民のブランド力を高め、誰ひとり取り残さない健康都市をめざすために極めて有益であり、潜在的な能力を発揮しきれていない地域住民の希望や夢となり、熟成された価値あるブランド力は上田市全体の活力の向上に寄与するものと確信しています。

おわりに、『スポーツ』を通して生まれる健康・感動・つながりは、すべての人の人生に豊かさをもたらし、健康増進、生きがいや充実感の付与、感動や勇気を与えること、それは社会全体の幸福に貢献することに相違ないと信じています。今後も多様性を尊重した活動をサポートし、誰もが輝ける社会づくりを推進していきます。市民のみなさまのご協力をお願いいたします。

『目標を見失わず頑張ること。そしてとにかく楽しむこと。自分のしていることを楽しめなければ、本気になることはできない』 ◆ 「世界最速の男」と呼ばれ、男子100m・200mの世界記録保持者ウサイン・ボルトさんの言葉

**V.LEAGUE WOMAN ファイナルで
「信州プリリアントアリーズ」が初優勝!!
「ジュニアアカデミー」も開校**

4月、上田市を拠点とするバレーボールのVリーグの「V.LEAGUE WOMAN ファイナル(決勝)」でルートインホテルズ「信州プリリアントアリーズ」が初優勝しました。千葉県船橋アリーナで、プレス浜松をフルセットの激戦の末 3-2 で勝利し初代年間女王の座を奪取しました。今シーズンのVリーグの改革により、トップチームのリーグ「S-V.LEAGUE」、そのほかはカテゴリーを分けない「V.LEAGUE」で、ルートインは「V.LEAGUE WOMAN」でプレー。チーム名を「信州プリリアントアリーズ」に改称して挑み、見事に優勝を勝ち取りました。

4月、初代王者のルートインホテルズ「信州プリリアントアリーズ」に、上田市は「市長表彰」を贈呈。上田市役所で表彰式を行いました。

式典では、チーム発足時から尽力している関代表が「名誉ある賞で心から感謝いたします。今シーズン、選手たちは1度しかない、初代Vリーグ王者をめざし、4月5日、上田城で花開いた桜と同じく、こちらが劣勢だった相手のプレス浜松にフルセットの末、勝利し、初代王者の称号を勝ち取ることができました。ホームタウン・上田市の皆様のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます」と語りました。チームの優勝だけでなく、地域で育成を行う活動が評価されて、初の最優秀育成クラブ賞も受賞できた報告も加えられました。

市長からは「初代王者、おめでとうございます。一人ひとりの力を発揮して見事に勝ち取りました。皆さんの活躍が、上田市民、長野県全体を元気にしてくれた。さらに成長していただきたい」と祝意を伝えました。

信州プリリアントアリーズは「ジュニアアカデミー」も開校。アリーズの育成部門「プリリアントジュニアアカデミー」は、これまでの初心者向けベーシックコースをスクールに改称し、新たに性別と年齢の幅を広げて小学4年生から中学3年生の男女を対象にスタートしました。

開校初日には、東北信地域から集まった小中学生約40人がトップチームの選手らと楽しく練習を行いました。初心者の児童をはじめ、部活と掛け持ちでスキルアップしたい生徒など幅広いメンバーが参集。練習は週末を中心に月3回以上、プロ選手やOGらも指導にあたるそうです。

市も価値あるスポーツ交流をバックアップし、未来に輝く子どもたちの夢を全力でサポートしていきたいと思えます。

『勝つことも大切だが、その前にもうひとつ、勝利をわがことのように喜んでくれる人を1人でも多く持つことだ』 ◆ バレーボール全日本男子代表の元監督や日本バレーボール協会名誉顧問、アジアバレーボール連盟終身名誉会長に就任したことのある松平康隆さんの言葉

**野村屋「STRIDERZ(ストライダーズ)長野」
eスポーツの世界大会に初出場**

2024年8月、上田市古里に本社を構える株式会社野村屋[現株式会社野村屋ホールディングス]が立ち上げたeスポーツチーム「野村屋 STRIDERZ (ストライダーズ)長野」が世界大会に初出場を果たしました。

eスポーツチームのメンバーは野村屋に所属するプログラマーで、3人1組のチームで戦うバトルロイヤルシューティングゲームに出場し、同チームは日韓予選で総合9位を記録して出場権を獲得しました。

世界大会には、各地域の予選を勝ち抜いた40チームが参戦しました。ALGS Year4 Split2 Playoffsに出場し、初めてのPlayoffはElimination Bracket 1にて20位(10ポイント)という結果となり、ここで敗退となりましたが、チームからは皆様からの温かい応援が選手たちの大きな力となったと感謝しておりました。



野村屋 STRIDERZのメンバー

野村屋の野村専務は、「上田市を拠点としたチームが活躍すれば関係人口や交流人口が増加し、上田を元気づけることができます。市役所近くに購入した施設をプログラミングやeスポーツを通じた学び、高齢者の健康維持などに活用したい」と語りました。

チームは、「eスポーツの将来は若い選手にかかっていると考え、新しい才能の発掘と育成に重点を置いたチーム作りをめざしています。チームビジョンである「MAKE BIG STRIDES (躍進せよ)」をコンセプトに、自分の夢に挑戦する人が集まる場所、その夢をサポートしたい人が集まる場所として、世界に誇れるeスポーツ選手を輩出し、長野県上田市と世界を結ぶ架け橋となります」と、力強い意志を携えて活動しています。

その心意気に感謝の念と熱い期待感を持って応援していきたいと思えます。

上田市からeスポーツが世界に飛躍していく・・・今後がますます楽しみです。



▲野村屋 STRIDERZの世界大戦での対戦風景

YouTube 上田市行政チャンネル
上田市の行政情報、イベント、歴史、文化、芸術、スポーツなど幅広く情報をお伝えします。



ご挨拶
上田再構築プランver.2.0を公的に掲げスタートした土屋市政も2期目の終盤を迎えました。土屋市長は常に市民の皆様の安全と安心・生命を守る事を最優先に考え、まちづくりに日夜、努めております。ごみ処理事業や水道事業等市民の生活に直結する重要課題にも、引き続き取り組んでまいります。市民の皆様への御理解と御協力に御礼申し上げます。後援会報を通じて日頃の活動について御報告をさせていただきますので、これからも土屋よういちを御支援いただけますよう、何卒よろしく御願申し上げます。

後援会会長
森 浩二
(上田病院理事長)

